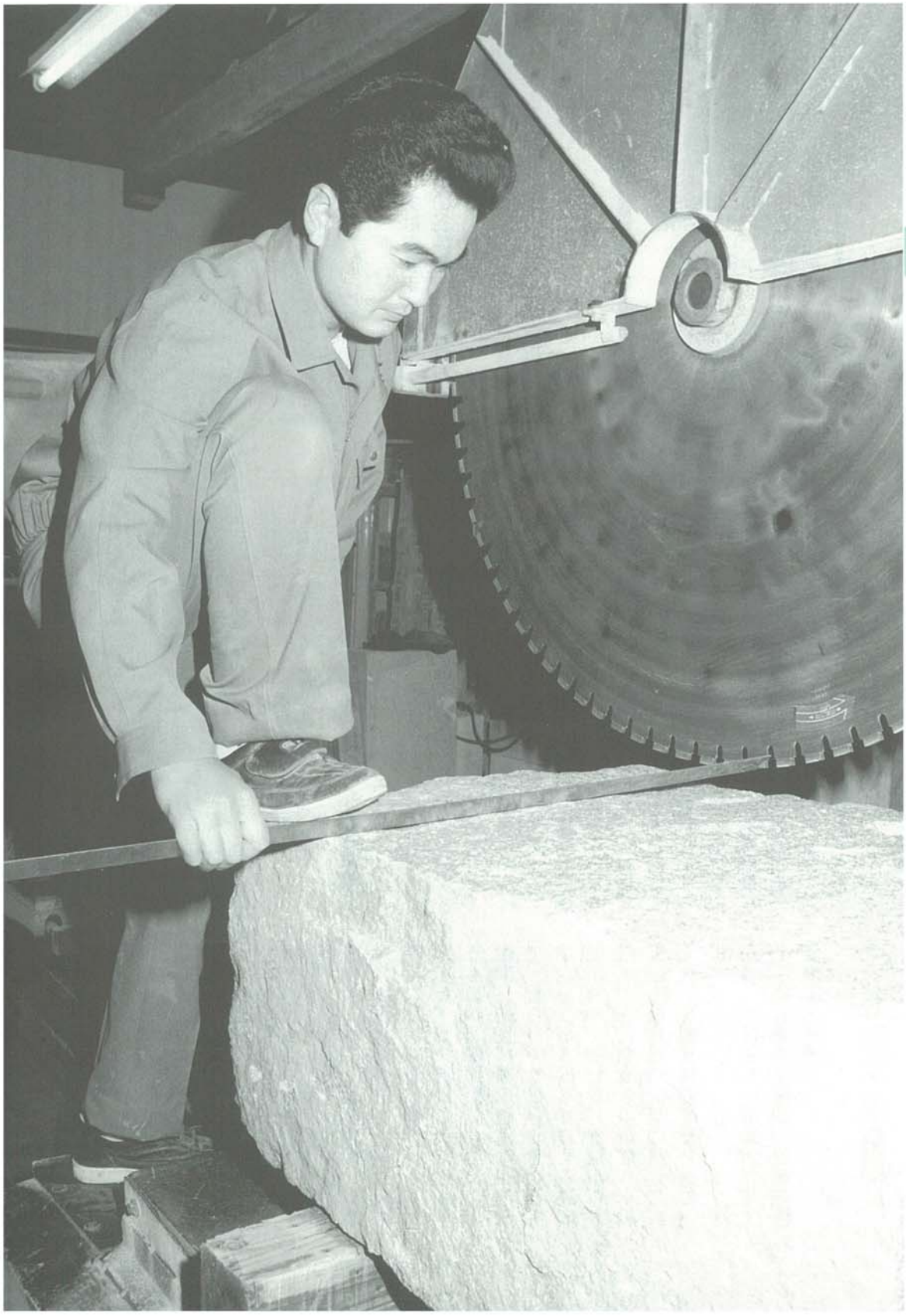
広報 あさひまち
ASAHI-MACHI
6 1990 JUN 月号 NO.403



シリーズ〝働く〟

個展への夢ふくらむ石工職人

御影石の原石が丸のこで切断され石柱にされてゆく。「私の店は手づくりが自慢です」と胸をはる鈴木昭由さん（大谷三・25歳）。

高校卒業後、二年間会社勤めをしたが、好きな石工職人になりたくて山形市内で二年間修業を積み、家業を継いで四年目。

お盆までは、猫の手も借りたいほど忙しく、家族三人と四人の従業員はフル稼動。もう少しひまになれば、石板への浮き世絵や彫刻に挑戦し個展を開くのが夢。

いま〝むらづくり〟がおもしろい

公民館活動と生き生きむらづくり

花いっぱい運動や公民館だよりの発行、おはよう走ろう会、レクリエーション大会の開催などなど…。いま、町内の各集落で、自治公民館を中心とした〝むらづくり〟活動が活発に行われています。

住みよい町づくりは、まずむら（地域）づくりから。今月は、自治公民館活動にスポットをあて、中心的役割を担っている方々に実践や課題について語りあっていただきました。

広報座談会

●出席者

石塚悦雄さん・39歳
四ノ沢公民館主事
公務員

渡辺武志さん・54歳
館報おくりはし
編集長・農業

海野義弘さん・42歳
能中公民館主事
会社員

司会／宮本建一
生涯学習課主査

渡辺恵美子さん・36歳
大谷五・北部地区
若妻会長・団体職員

〝四部会〟でむらづくり提言

司会　現在、むらづくりは区と自治公民館の二つを中心にすすめられていますが、今回はとくに公民館活動の面からむらづくりを考えたいと思います。

みなさんは、各公民館の主事などをされながら住みよいむらづくりにとりくんでいるわけですが、まずはじめにそれぞれの活動のもようからお話し下さい。

石塚　四ノ沢公民館では、昭和六十三年から区長と公民館長が役割分担をして活動をすすめてきました。現在、子ども会、若妻会、婦人会、青年会など各団体のほか、ソフトボールやスキー、ゲートボール、写真などの各種愛好会が、それぞれ年間計画をたててとりくんでいます。

今年度の公民館会計の予算は六十六万円。ことしの新しい事業としては、四ノ沢堰でちびっ子笹舟選手権大会をやります。あとは、おとしよりをコーチに、区民みんなでできる区民ゲートボール大会も六回目になります。定期的なものとしては、毎月五人のメンバーによる館長、主事会。区報〝亀の子ニュース〟の発行などがあります。

あと、四ノ沢はこれだ！というものが〝四部会〟。教育文化、産業、防災、環境整備の四部門で、むらづくりのあり方などを話合いながら区へ提言する諮問機関です。それと、明治から平成まで四代を生きぬいて八十歳を迎えたおとしよりに対し、〝八天賞〟を贈り長寿をたたえています。

司会　すばらしい活動ぶりですね。次に東の玄関口、送橋の渡辺さんどうぞ。

こころを結ぶ公民館だより

渡辺　送橋の場合は、区長が館長、代理が主事という体制で、私は主事補と館報「おくりはし」の編集長をやっています。組織としては四ノ沢と同様に各団体

〝花の咲くむら〟いま各公民館を中心に花いっぱい運動がくり広げられている（西船渡）

や愛好会のほか、りんご組合、桃組合など生産団体が大きな力になっています。またスキー愛好会も五十歳～七十五歳のメンバーが中心になって熟年パワーを発揮しています。

館報は月一回発行でもう七十五号になります。きっかけは、カラスの鳴かない日はあっても公民館に電気のつかない日はないといわれるほど行事が重なるため、各種団体などの日程調整や活動、区民の声などを紹介しようということで六人のメンバーが交代で編集を始めました。

今でも公民館利用は調整がむずかしく狭いこともあって、来年度には新しい集会施設の建設とコミュニティ広場をつくる計画をすすめているところです。

司会　いま公民館建設のお話が出ましたが、昨年新築されたばかりの能中の海野さんはいかがでしょうか。

むらづくり 青壮年がリード

海野　念願だった公民館が完成し区民の喜びもひとしおですが、今後どう活用していくのか話合いをやりながら活動をすすめている状況です。

まず、区民を結ぶ情報のひろばをということで、去年から館報を年四回目標で手がけました。若手を中心に十人の委員でとりくんでいますが、なかなか苦労しています。各種団体の中で、とくに活発なのは婦人会。町民大学の履修者も能中が一番多かったように、華道や書道、茶道、民謡体操など、婦人文化教室に一人で三つもかけ持ちしている人もいます。

そのほか活動の核となっているのは、二十代から四十二歳までの若衆で組織する協友会があります。区のシンボル〝一本松〟の周辺整備や野外バーベキュー大会、ピアガーデンの開催、三中分校の奉仕作業など、忙しい年代ですが継続してとりくんでいる点は大きいと思います。

司会　それぞれ各地域の特色が出ていてすばらしいですね。

渡辺さんの場合は、若妻会の立場で活動を支えているわけですがいかがですか？

渡辺（恵）　大谷五区では地名の峯檀の名をとって、三十五歳までの青峯会、三十六歳から五十歳までの峯友会という青、壮年のグループがリードする形でとりくんでいます。若妻会は独自の行事はあまり持たずに、各団体の代表で組織する公民館運営委員会の一員として参加しています。

青峯会は衛生活動やレク大会、峯友会はカーブミラー清掃とか秋葉山の整備など奉仕活動に力を入れてやってますね。

できることから 行動の輪広げよう

司会　各公民館とも愛好会やスポーツ・レク活動、奉仕作業とバラエティーに富んだとりくみをやっておられますが、課題や悩みも多いのでは？

渡辺（恵）　やはり若い世代の集まりが少ないこと。仕事や勤め先の関係で仕方ないとは思うけど、地区の青年会組織がなくなったことも影響しているのか、区の行事などにもあまり参加してくれませんね。やる気のある若者がぜひほしい。

それと、区に住んでいても知らないことが多いし、館報で区民のこころを結ぶことはすばらしいことだと思いますね。

司会　町内で館報を出しているのは十五館くらいです。適任者がいないという声もありますが、まずやる気から。年一回でもいいし、できることから気軽にやってみることですね。

明日のむらづくりを語りあった座談会（六本木で）

海野　何しろ素人の集まりでむずかしい。編集に時間がかかって夜中になることもあるし、四苦八苦してます。

渡辺　今はワープロ編集で、二人ずつ三交代で担当していますが、以前はみんなでワイワイやっていたし時間がかかって大変でした。でも手書きの方が味わいがあるし、新聞らしくて良かったような気がします。各家庭でも楽しみに待っててくれますし、大事に綴ってくれてるのを見るとファイトがわいてきますね。百号になったら花火を上げようと頑張ってます。

石塚　たしかにそれぞれ仕事も持ってますし大変ですね。私たちも館長を中心に主事、主事補と五人でやっていますが、責任と能力がともなっているのかと反省することばかり。むらのために頑張っているのにどうして批判があるのかといった悩みもある。でもよく考えてみると、むらとか人のためでなく、自分の勉強のためなんですよね。

司会　その姿勢は大切ですね。なかなかむずかしいことですが、まず、やる気のある人が中心になって、批判を恐れずさまざまな取り組みをやってみることが必要だということですね。

参加しやすい環境づくりを

渡辺（恵）　若妻会も年代が広がっているせいもあって話が合わないとか、子育てで出れないといった悩みをかかえ、活動のむずかしさを実感してます。日中外に出て働いている人がほとんどですので、夜も子どもをあずけて活動に出るということは本当に大変なこと。家族の協力がぜひほしいですね。

石塚　事業を組む場合も若妻対象の七宝焼教室とか、参加しやすい手だてを工夫したりしてやっているんですが。

海野　壮年層の場合も若衆会をやめたあとの受け皿がない。そういう集まりがあれば、もっと参加する人が増えてくるように思います。

渡辺　やはり、親睦会や壮年ソフトボールくらいですね。新しい組織をつくるといってもなかなか大変ですので、事業面で工夫する必要はあります。

司会　次に、区と公民館の役割分担について伺いたいんですが。

石塚　区長と館長が、一体でないとだめだというのはどうしてなのか。四ノ沢では区の運営には公民館長も入っていますし、連携しあってうまくやっています。区長は多忙だしみんなで役割を分担しあって、より多くの区民が係わりをもって進めた方が望ましいと思うんです。

海野　確かにその通りですが能中はまだそこまで行ってません。ただ運営面では各種団体の代表が入って公民館の独自の行事を組んだりしながら、そのつど区の会計から予算をつけてもらって事業をすすめるようにしています。

　将来は分担しあうような方向が望ましいですね。

渡辺　送橋でも数年前に分けようという動きがあったんですが会計の問題が大変で、かかった分は出すのでお前達自由にやれという形になった。

石塚　去年の区費の総額は二百六十万円。うち六十一万円が公民館会計で、一斉まかせられています。区は行政面、公民館は教育面と役割は分かれているし、各団体や世代ごとの声が反映されやすいという利点はあると思います。

司会　区によってそれぞれやり方があると思いますが、公民館の役割から言っても、せめて主事は動きやすい若手の方が望ましいでしょうね。

渡辺（恵）　大谷五区では青壮年の代表格の人が主事になっているようです。毎年夏には青峯会主催のビアガーデンを行っていますが、みんなはりきってやっていますね。やはりまかせるところは一切まかせた方がおもしろい事業ができるみたいです。

たまり場と人づくりが課題

司会　活動や運営面では、あくまでも主役は区民自身ですが、行政に対して望むことなどはあるでしょうか。

石塚　一つは先日藤島町へ研修に行って感じたことですが、生涯学習推進の最前線である自治公民館にもっと出向いて、出前学習をやってほしいこと。もう一つは町づくりの基本は人づくりといいますが、生涯学習の町にふさわしい予算をつけて本腰を入れて人づくりに取り組んでほしいことですね。

〝区民レク大会〟全区民が集いあう交流の場に（四ノ沢公民館）

〝館報〟区民の心を結ぶ手づくり新聞が好評

〝奉仕作業〟さわやかな朝のひとときをみんなで（常盤公民館）

〝壮年パワー〟さあ！おとうさんの出番です（大暮山公民館）

海野　何といってもリーダー、指導者の養成ですね。余暇時間が増えて、遊びや趣味、スポーツ、学習の機会などが多くなるわけですが、遊び方や余暇時間の過ごし方などを指導する、幅広い人材の輩出が今求められているときだと思います。

渡辺　むらづくりの拠点としてのたまり場の整備です。先にも話しましたが、老朽化して狭くなったこともあり送橋にふさわしいコミュニティ施設といこいの広場づくりを計画してます。たまり場づくりや活動面へのバックアップを望みたい。

渡辺（恵）　私は地元をもっと大切にしてほしい。地域の文化や個性を育てるソフト事業や、気軽に利用できる生涯学習施設はぜひ必要です。

それぞれの個性生かした活動を

司会　最後に、こんなむらづくりをしたいという夢や理想などをお話し下さい。

渡辺　送橋川の清流を魚が泳ぎ回って、自然豊かな美しい環境のむらですね。町の東玄関口にふさわしいさわやかな雰囲気あふれるむらづくりをめざしたい。

石塚　誰でも本音で話しあえるようなむら。国道沿いにあることもあり、開放的な中にも事故などから身を守る設備の整ったむら。りんご温泉などを生かした、物心ともに豊かな生きがいのある里づくりですね。

海野　住む人がそれぞれの個性を発揮しながら、バラバラでなく共に生きるという連帯感をもったむらづくりですね。そして活動の拠点である公民館では、常に人のぬくもりが感じられるような活動をめざしたい。

渡辺（恵）　先日、北部地区若妻会で活動や生活面での悩みなど、本音を出してもらおうとアンケートをやってみたんです。まだまとめはしていないんですが、子育てや若妻会活動への思い、家庭生活の悩みなど、熱い思いが伝わってくる内容ばかりでした。いろいろつらいことがあっても同じ地域に住む者として、力をあわせて生きていこうという姿勢があり、この気持ちを大切にしながら活動に結びつけていきたいと考えてます。

司会　みなさんが、日頃真剣に取り組んでおられる姿が大きい輪となって、個性豊かなむらづくり活動がいっそう活発になることを期待します。

ありがとうございました。

町政スポット

あなたが『主役』のまちづくり

●町政座談会38会場で開催

活発な質問や意見が出された座談会（松程公民館）

町内三十八地区を対象にした町政座談会が、今年も五月二十一日から各公民館を会場に開催されました。

今年は開催を希望する集落で行ったこともあり、どの会場も出席率はたいへんよく活発な意見や提言が出されました。

座談会は、町側より平成二年度の重点施策説明に始まり、その後質問、意見に答える形で進行。道路や側溝整備など身近な問題について、一日も早い改修工事を望む意見が出される一方、昨年十月にオープンした朝日自然観に対する意見が集中。「ホテル周辺に季節の草花を植栽しては」「お風呂からの眺めをもう少しよくして」「アクセス道路の改修を一日も早く」など、施設の充実を望む声が多く出されました。それに対しては、今年度積極的に道路整備に取り組むとともに、子供たちの遊具施設の設置や常設のバーベキューハウス建設などにより、なお一層楽しめる自然観をめざすことにしています。また、サービス面に対しても今後ともお客様に満足いただけるサービスを心掛けることにしています。

その他、合併処理浄化槽の設置や危険物などゴミ処理についての質問、文化会館の建設要望など、多くの貴重な意見が出されました。

町では担当課ごとに、現場調査や県など関係方面との協議を経て、内部の総括検討会を開催。要望のあった事項で、緊急を要するものは六月補正で対応するなど、具体的な対策をまとめた上、各区長さんを通じて報告することにしています。

保健婦だより

虫歯予防は家族みんなで

六月四日～十日は「歯の衛生週間」。この期間だけ歯のことを考えるのではなく、折をみて歯のことを八ッと思い出していただきたいものです。

朝日町の幼児の虫歯り患率（虫歯にかかっている割合）が全国でも高い方だということをごぞんじですか。

図Ⅰのように、山形県の虫歯り患率は三歳児で全国二番目、一歳六カ月児では八番目と極めて高いことがわかります。

そして我が朝日町は山形県でも常に上位を占めています。つまり朝日町は、全国でも虫歯の子どもの多い町ということになります。こんなありがたくない汚名は早く返上したいものですが、残念なことに朝日町の子ども達の虫歯り患率はなかなか減少しません。虫歯予防のノウハウについてはみんな理解しているのですが、なかなか実行につながらないようです。

虫歯り患の状態をみてみると二世代家族より三世代家族の子どもに虫歯が目立つようで、これは全国的な傾向です。また、昔は都会に虫歯が多く、農山村に少なかったのですが、今日ではこれが逆転して農山村に虫歯が多くなっています。

子供達の歯を守るには両親、祖父母、そして地域の人々の協力が必要です。

子供はわずかでも自我が芽ばえると、自分のわがままや好みを主張するようになります。甘いお菓子をねだったり、ジュースや乳酸飲料を欲しがったり。けれども、そんなわがままをいつでもどこでも受け入れていると、さあ大変。乳歯が虫歯になるばかりでなく、その下に待機している大人の歯まで悪影響を及ぼすことになります。

子供の歯の健康ポイントは二つ。正しい食生活と歯みがき習慣を身につけることです。

図Ⅰ　幼児の虫歯り患率状況（S63年度）

上位の都道府県

順位	1歳6カ月児	3　歳　児
1	鹿児島県（19.2%）	鹿児島県（80.4%）
2	北海道（14.7%）	山形県（79.4%）
3	沖縄県（13.1%）	長崎県（78.1%）
4	岩手県（12.7%）	秋田県（72.7%）
5	青森県（11.5%）	宮城県（72.1%）
⋮		
8	山形県（10.0%）	
	朝日町（27.1%）	朝日町（88.9%）

英気を養った新戦力たち

新規学卒就職者激励会

職場のフレッシュマンが勢ぞろい

町内の事業所などに、今春就職したフレッシュマンの激励会が六月一日、朝日自然観で行われ新たな人生のスタートへ希望を膨らませました。

この日の参加者は、高校や大学を卒業して町内十一事業所に就職した十四名。清野収入役が「楽しさを食べて友と語り合い、喜びを食べて強く生きる。有頂天という山に登らず、調子という車に乗らず、日々努力し大器の花を咲せてほしい」と励ましの言葉を送りました。全員に朱肉の記念品がプレゼントされ、殖産銀行宮宿支店の今野明寛さんが「会社の先輩の指導のもと、初心を忘れず自己研鑽に励みます。また、豊かな自然が沢山ある朝日町を仕事を通してピーアールしていきたい」とお礼の言葉を述べました。

この後、テーブルマナーを兼ねた昼食をごちそうになったりグランドゴルフを楽しんだり、新戦力たちは明日からの英気を養いました。

"簡易保険"は町づくりに生かされています

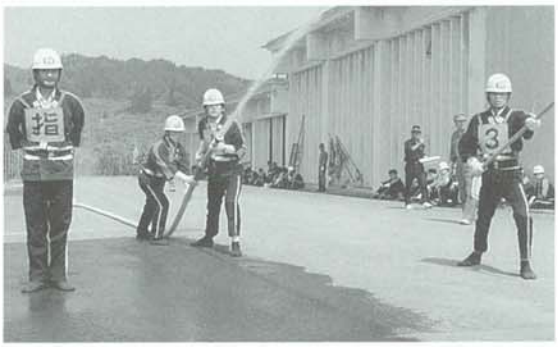
郵便局で取り扱っている簡易保険の積立金は、学校や道路、公園整備など公共事業の活用資金として還元融資され、町づくりに生かされています。当町では、平成元年度次の事業に融資を受けました。

・町道大暮山線	11,200(千円)
・〃 雪谷線	12,800
・〃 稲葉線	11,300
・〃 大谷水上線	2,300
・〃 白倉線	34,100
・〃 今平線	8,000
・〃 大谷真中線	4,400
・〃 前田沢下芦沢線	12,600
・〃 前田沢西町線	18,800
・〃 前平線	4,100
・〃 沼ノ平線	6,100
・〃 上郷水本線	1,800
・〃 稲葉線舗装	900
・集落道沢向線	8,500
・〃 森越線	500
・〃 上向線	2,800
・林道一ツ沢線	2,600
・作業道白倉線	15,600
・緑ケ丘公園整備	37,400
・立木小学校用地造成	29,800

緑ケ丘公園内に整備される町民プール

見事なポンプ操法を披露

町消防ポンプ操法審査会


県内でもトップクラスの操法今年は全国大会に一の一が出場します

消防団員の士気高揚と消火活動のレベルアップをめざして、五月十三日、和合の果実流通センターと和合小学校グラウンドを会場に、消防ポンプ操法審査会と小隊訓練審査会が行われました。

ポンプ操法審査会には、各部より抽せんにより選出された、積載車六台、自動車ポンプ四台、小型ポンプ十七台が出場。各団員は、同大会に備え早朝や夜間の訓練に励んだ成果を披露。審査の結果、最優秀賞には地元の一分団三部小型一班（和合）が、優秀賞も一分団三部自動車班（和合）が輝きました。

成績は次のとおりです。

■**自動車／金賞**一の三（和合）**銀賞**一の一（宮宿）・三の一（大谷）**銅賞**二の四（常盤）

■**積載車／金賞**一の四（送橋）・一の六（上郷）**銀賞**一の一（宮宿）・二の三（八ツ沼）

■**小型／金賞**一の三（和合）**銀賞**一の一（助ノ巻）・一の五（水本）・二の六（今平）・二の一（太郎）**銅賞**三の四（栗木沢）・二の五（松程）・二の三（八ツ沼）

タムシバの花

春が来た　春が来た
空気がふっと持ち上がって
ついでに心まで舞い上がった

朝え渡るブナを求めて

長く厳しい冬から解放され待ち望んだ季節が、野にも山にもやって来た。そんな、ふるさとの自然を満喫しようと五月十三日、中央公民館主催の『ブナの森観察会』が、朝日鉱泉・上倉山で行われました。講師は、写真家の姉崎一馬さんや西沢信雄さん。それに日本ナチュラリスト協会の岡坂恭博さんの三名。町内外の参加者二十名は、ブナの若葉の透きとおった緑や雄大な残雪の大朝日岳などを目のあたりにし、あらためてブナの森の豊かな美しさをかみしめていました。

森林浴を楽しみながらブナ林を登る一行

朝日川にかかる吊橋を渡る

姉崎さんのスライド上映会（朝日鉱泉で）

カメラさんぽ

目の前に広がる朝日連峰

さあ、上倉山めざして出発!!

自然の偉大さを語りかけるブナの大木

残雪を踏みしめる感触が心地よい

ひろば

■連絡先
役場企画情報課
企画広報係へ
☎67―2111（内222）

「はっけよ〜い　のこった！」
和合小相撲大会

「ひがーし、りんご山。にーし、ちびまる川」元気いっぱいの呼び出しの声が土俵に響く。

和合小学校（高橋美好校長・生徒数六十二名）の相撲大会が、五月十九日に行われました。

当日は、自分で考えてつけたしこ名を呼び出しに呼ばれると、白いまわしを付けた豆力士が登場。しょっきりをきって、はっけよーいのこった！

序の口（一・二年男子）から始まる取り口も学年が進むにつれて、次第に白熱。二度の取り直しの末勝敗がつくという大相撲もあり、さじき席の父兄は盛んな応援を送っていました。

まわし姿もかわいい豆力士

豊作願って花摘み作業
りんごの町を知る体験学習

運動着姿の高校生が、脚立を持ってりんごの花に見え隠れ。

少しでも〝りんごの町〟朝日町を知ってもらおうと、五月九日朝日分校生全員によるりんごの花摘み体験学習が行われました。

当日百十八名の全校生徒は、自宅から最も近い町内のりんご畑十一カ所へ分散。ここ送橋の安藤武助さんのりんご畑では、十二名の生徒たちが、奥さんの安藤くにさんの指導のもと、さっそく側花の摘み取り作業を行いました。初めて花摘みを体験したという生徒もおり、少しとまどい気味でしたが、それでも一生懸命。「今年のりんごの作柄は、開花期の天候が不順だったので少し心配ですが、生徒たちの真面目な働きで、きっと豊作になるでしょう」と安藤さんは話してくれました。

花摘みに精をだす生徒たち

ぼくのおばあちゃん

常盤
長岡　大輔くん（西五百川小5年）
秀実ちゃん（6歳）
おばあちゃん
長岡　きゑさん（69歳）

ぼくのおばあちゃんは洗たくがとくいです。ぼくが、野球やマラソンのれんしゅうで毎日ズックをよごすので、おばあちゃんが1日おきにぼくと妹のズックをあらってくれます。だから、ぼくはいつもきれいなズックをはくことができます。

料理も上手で、ぼくはなかでも、おじいちゃんが畑で作った、うどやわらびを煮た料理が大すきです。ぼくがおとなになるまで、どうか長生きしてください。

町民の

このひろばはみなさんのページです。話題やご意見、作品など、ご自由にお寄せ下さい。

ひとことトーク

五十嵐菊男さん
（中沢・57歳）

マナー守って山菜採り

趣味で仕事もいきいき

んだなー。シーズン中だいたい七回位は毎年行ぐな。その他、秋にキノコ採りにも行ぐすよ。山菜だば、ゼンマイから始まってタケノコまで、まず何でも採ってくんなあ。たまに、山菜の王様て言われるシオデとかユリナも採ってくるすよ。

前に、山ん中で道さ迷たばあちゃんば助けだ事あったなぁー。やっぱり山さ入たら、遭難とタバコ火だけは気つけらんなね。あど、山の入口さ鎖はってあって、夜入らんねぐしておぐ所あんなよ。昔、キノコのホダ木盗まったんだど。みんな、えまとマナー守んねどだめだな。

まず、会社勤めで休むな大変だげど、山好きだすおもしゃえもねー。次の日から、仕事さ身も入るすよー。

ふるさと人国記 2

菊地吉蔵

—立志伝中の人—

人間の生き方はさまざまである。ふるさとに根づいて生きていく一生だけではない。ふるさとを離れ、波のようにうねりながら流れて定まる一生もある。だが、いつもふるさとを思いふるさとを慕っている。

大正六年秋、大谷小学校の増築工事が完成し、十二月三日に落成式が挙行された。このことを当時の山形新聞は次のように報じている。

——増築校舎の総建坪は百六十九坪、建築費用総額一万一千二百五十四円五十銭で、本村出身者、在神戸、東和汽船株式会社社長菊地吉蔵氏の寄附たり。総ガラス、浅野スレート瓦ぶきにて、県下稀有（けう）の工事なり。——

ふるさとの校舎が、出身者一人の寄附によって増築されたというニュースは、大きな驚きとなって県下に伝えられた。

話題の主の吉蔵は、明治七年九月十九日、大谷村の農家菊地榮次郎氏（現吉野屋・実氏の祖父）の長男として生れた。小学校を卒業するとすぐ家業を助けて働いたが、やがて、雄志を胸に東京に出て働き、その後神戸の船問屋で働くこととなる。

船問屋の主人となった吉蔵は船を数隻買い、東和汽船株式会社を創業して巨万の富を得たといわれる。そのかたわら育英会をつくり子弟を育てたことが、「我一家集」という彼の編んだ本によってうかがえる。

大谷小学校校舎が解体された折、この偉大な快挙を称え、「菊地吉蔵顕彰碑」を建立した。

昭和二十四年四月一日没。

文・杉　ひさし

高原の初夏はワインで乾杯

朝日自然観ワインまつり

ワイン400ℓ・牛肉230kgペロリ

新緑をわたるさわやかな風の中、朝日自然観初夏のワイン祭りが6月2日、3日の両日中央広場で開かれました。

会場では、樽詰めされた冷たいワインが飲み放題で、丸焼きした牛のもも肉が振舞われるなど、町内外から訪れた500人の参加者たちは、大自然の中で野趣あふれる味を満喫していました。

評判も上々の牛ももの丸焼き

ふるさとの山河に迎えられて

東京和合会がふるさとツアー

町立和合小学校の卒業生で、関東方面在住者で構成されている東京和合会（菅井勇会長）の一行二十人が、五月十日〝ふるさとツアー〟で朝日町を訪問しました。

この日朝、山形駅に到着した一行は、「朝日自然観」の車で一路母校の和合小学校へ。児童たちの歓迎をうけ、あいさつを交したあと、みんなで「ふるさと」を斉唱。涙をこらえる会員が多く、感動的な交歓会となりました。

東京和合会は昭和五十八年に結成されましたが、六十歳以上という制限があり、現在、約四十人のメンバーが年に数回集って親交を深めている団体です。

一行は、ふるさとの山河に迎えられながら朝日山麓家族

堂々の入場行進をする朝日サンフラワーズ

将来の甲子園球児大集合

第九回西村山野球スポーツ交流大会

五月二十日、五月晴れのもと秋葉山グラウンドと緑ケ丘公園グラウンドを会場に、第九回西村山野球スポーツ少年団交流大会が行われました。

本大会は、西村山一市四町の野球スポーツ少年団十六チーム（約三百名の選手）が参加。

朝日町サンフラワーズ（石塚悦雄監督・団員三十六名）は一回戦溝延野球少年団（河北）を5－4、二回戦中央スラッカーズ（寒河江）を5－4と、接戦の末敗り見事三位に輝きました。

町職労5年ぶり春季制覇

町春季野球大会

町野球連盟主催による春季野球大会が、5月20日、27日の両日、緑ケ丘公園グラウンドで行われました。

試合は7チーム参加の、トーナメント方式で行われ、準決勝でアタックス（井沢喜美雄監督）に延長9回6－5でサヨナラ勝ちした町職労チーム（熊谷貞則監督）が、決勝戦でもその勢いを持続し、北部キラーズ（志藤正利監督）を5－2で下し5年ぶりの優勝をかざりました。

優勝した町職労チーム

学ぶ楽しさを仲間と共に

高砂大学20周年記念式典

生涯学習盛んな当町において、二十年前から自らのために学び続けている高砂大学(布施五郎左ェ門学長・学生数151名)が、五月二十三日西部公民館で二十周年記念式典を行いました。

当日は式典に先立ち、登坂富さん(八ツ沼)と宗邦会(婦人文化教室茶道部)の皆さんが、出席者百三十名一人ひとりに心のこもった抹茶をごちそう。式では昭和四十六年以来、二十年間学び続けた海野仙吉さん(長沼)ら十三名の学生に表彰状が、また、永らく学長として活躍された佐竹峰松さん(夏草)と大井武さん(太郎三)に感謝状が学長より贈られました。

20年学び続けた人には表彰状

その後小林町長の記念講演と祝賀会に移り、楽しみながら一生学び続ける大学が新たな歴史に向かってスタートしました。

旅行村「朝日自然観」に到着、ホテルのお風呂で汗を流したあと、地元和合の旧友たちと合流し、なつかしさにひたっていました。

大広間で行われた「懇談の夕べ」には、小林町長もかけつけ、町出身者による初のふるさとツアーを歓迎しました。懇談は夜おそくまでつづき、朝日自然観での一夜は忘れられない思い出となりました。

なつかしい母校和合小学校で記念撮影

ふるさとめぐり〈2〉

最上川の湖水に映える歴史と文化の集落

松原

境内で奉納される獅子舞

青葉繁る山と川の合間より聞こえる、野鳥の甲高い鳴き声にさそわれて一日が始まる。

自然環境に恵まれた緑豊かな松原。中心部宮宿より南へ約四㎞。帯状にたたずむ集落で戸数四〇戸。水稲、果樹、ホップを営む兼業農家がほとんどである。

当地は古くから栄え、村はずれに地蔵尊があり地蔵むらとも言われた。また白鷹山参拝者の通過点でもあり、教育面では寺小屋で学んだ方々も多い。

集落の高台に位置する杉の木に囲まれた広場に、数百年前より優しく見守る厳島神社がある。四月二十九日の祭典では、婦人会や同行会、子供達の笛太鼓に合わせて獅子舞が境内で奉納される。この日は村あげてのふれあいの場である。また旧四月一日より三日間千度参りがある。笹の葉と割箸、水を準備し、額に笹と割箸で水を付け千回境内を回る行事で、大火のあった昔から災難に合わないようにと続けられている。

朝な夕なに霊峰月山と最上川の湖水を眺望しながら、明日に向って力強く歩み続けている。

(文/松原区長　松尾信朋)

人権擁護委員制度をご存じですか

阿部憲一郎さん(真中)に全国表彰

人権、それは人間が平和に生きていく上で、最も大切な権利です。自分だけでなく、あなたも、私もみんな人権が尊重されなければなりません。

昭和二十三年、人権擁護委員制度が設けられ、国民の基本的人権を擁護し見守るいわば〝民間人による人権の番人〟が誕生しました。それが人権擁護委員です。

このたび、永年委員として活躍されている阿部憲一郎さん(真中)が、五月三十一日、県人権擁護委員連合会定例会の席上、全国人権擁護委員連合会長表彰を受けられました。

人権問題についてお悩みの方は、毎月第三木曜日午前十時から午後三時まで中央公民館で相談会が行われますので、どうぞお気軽においで下さい。

自然とともに 人間はどう生きてきたか

狩猟採集文化から農耕文化へ

朝日町の歴史によると、古くは旧石器時代から始まり、真木発見の三万年前の円盤状石核、あるいは大隅遺跡の二万年前の石刃があり、この地方にも旧石器・狩猟採集文化のあったことが知られています。

次の縄文時代（一万年――二千三百年前）の遺跡はたくさんありますが、私たちの祖先は自然の恵をあるがままに利用して豊かな生活を営んできました。その次の弥生時代（約二千年前）になると、大陸から稲作が伝えられ人口が急増しました。

ナラ林の時代

縄文時代には東日本一帯は、ブナ、コナラ、クリなどの落葉広葉樹がうっそうとしげる森を形成していました。花粉分析の結果からもわかったことです。それらの木の実は人間の食糧に適し、しかも生産量が高く、まさしく人間が生活するには都合の良い土地でした。

次のような光景を目に浮かべて下さい。

五千年前のある日、男たちはカラムシの糸を張った短弓を持ち、シカ狩りに行く。シカは見つからなかったけれど、イノシシが落し穴にはまっていた。家では女たちが石皿でドングリをすりつぶしヤマイモの汁を合わせ、ダンゴを作っていた。イノシシの油であげたらどんなにおいしいだろうとさざめきながら。

また、深鉢形の土器の中に炭化したクリの実が、町内立木地区から発見されたことがありました。当時は木の実が主食だったとうかがい知ることができます。

縄文晩期（三千年前）は川べりに遺跡が多いので知られています。サケ、マスの大群が最上川はもちろん、朝日川、送橋川、大谷川の各支流にも所せましとさかのぼってきたことでしょう。

小清水遺跡はサケ・マスを捕るのに都合のよい最上川べりに位置しています。岩坂遺跡もまた送橋川が本流と合う所にあります。

縄文時代の食生活は山の幸や川の幸に恵まれており、かなり豊かに食ぜんをにぎわしたのではないでしょうか。

スギと照葉樹林

スギ林は、とくに西日本では古くからしげっていました。福井県鳥浜貝塚（六千年前）からは、板材がたくさん発見されました。スギはまっすぐに育ち、割りやすい木です。ノコギリのない時代でも割って板をとるのに適していました。当時はどんな道具を使ってスギを割ったのでしょう。それには石斧（おの）が最も適していたと考えられています。

東日本の落葉広葉樹林（ナラ・ブナ）に対し、西日本は照葉樹林がしげっていました。しかしそこに生育したシイ・カシ類は、ブナ・ナラ類に比べ生産性がはるかに低いのです。

縄文時代の人口は、今より二度ぐらい暖かだった中期が二六万、晩期で一〇万と推定されます。そして、琵琶（びわ）湖を境として東が九割西が一割という大きな人口差のあったことが遺跡の分布などから指摘されています。

今からおよそ二千年前、弥生時代のこと、まず照葉樹林帯の

風を駆けぬける子どもたち

町小体連陸上大会

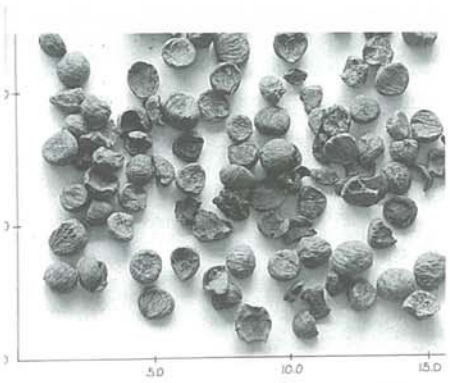
「イチニツイテ、ヨーイ、ドン」さわやかな初夏の風が吹きぬける町立西五百川小学校グラウンドで五月二十九日、町小学校陸上競技大会が町内の小学六年生と複式学級の五年生約百九十二名が参加して行われました。

開会式では小関勉くん（上郷小六年）が力強く選手宣誓。引き続き全選手参加による百メートル競走に入り、選手たちは自己の限界に果敢に挑戦しました。

各種目の優勝者は次のとおりです。

■100ｍ走（男子）／熊谷雄司（和

風をきって走る選手たち（70ｍハードル）



縄文時代のクリの炭火した遺物(白倉出土)

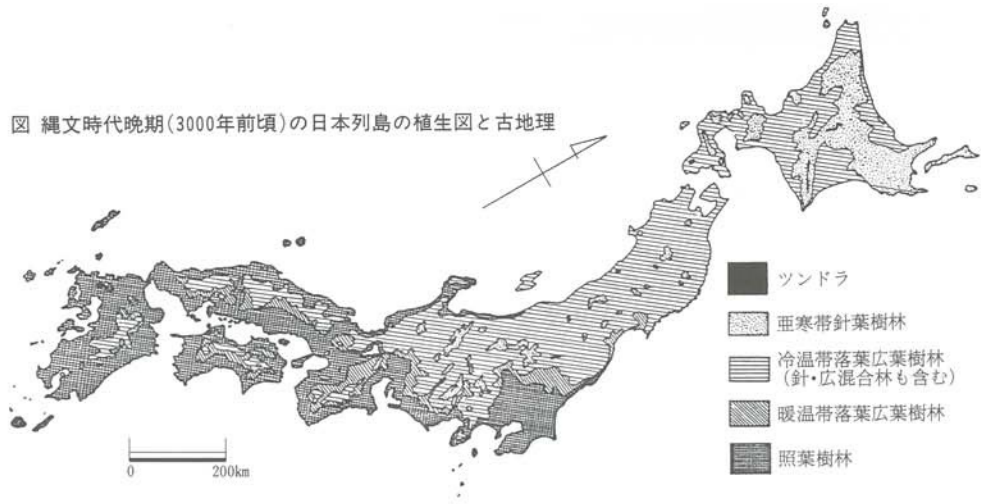
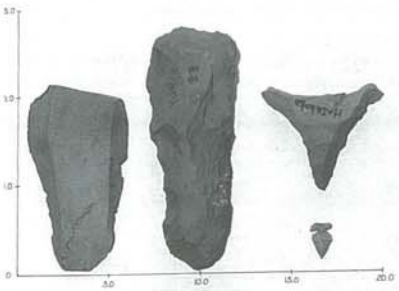
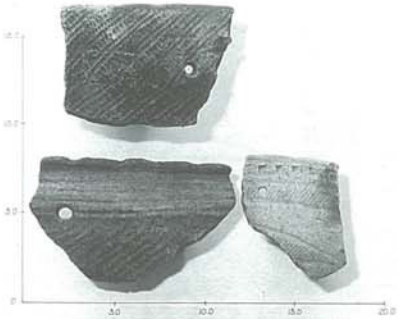


図 縄文時代晩期(3000年前頃)の日本列島の植生図と古地理



左から旧石器時代の石刃(大隅遺跡)、縄文時代の石斧(和合)、三脚石器(畑鉾)、弥生時代のアメリカ式石鏃(やじり)(小笹出土)



修復のため穴をあけた土器片(小清水遺跡)

農耕文化と森林破壊

西日本に大陸から稲作が伝えられました。稲作による農耕文化は次第に東進し、北上して、二、三百年を経ないで青森県にまで達しました。

わが国に稲作が伝えられると、ドングリ類より何倍も生産量があり貯蔵性の高いコメは、人口の急激な増加を促しました。以前の狩猟採集の時代に比べ、六十倍も人口が増えたといわれています。

森は、田畑を開くために大量に伐採されました。人が増え家を建てなければと木がきられ、燃料とする薪もたくさんきられるといったふうに、森は次第に狭められていきました。

奈良の大佛が建立された時(七五二年)、畿内の山々から大量の木材が供出させられましたが、そのために、はげ山がたくさんできました。そして千二百年以上たった今でもはげ山で、元の森の姿に再生することはありませんでした。

農耕文化は約八千年前、西アジアに始まったといわれます。メソポタミアやエジプトではそれぞれ農耕の豊かな収穫を基にして、高度の文明を築き上げました。しかし、森を失ったこれらの地方では、気候も悪化し、ほとんど砂漠地帯になってしまいました。

地球上の砂漠化は、現在はとくに著しく進行中で、一年間に、九州と四国を合わせた面積に及ぶといわれています。

また、南アメリカのアマゾン地方では近年、農地を作るために大規模な開発が進められていますが、おかげで一九八八年には一年間で緑の大陸と呼ばれる広大な森の面積の一〇%が消えたといわれています。地球上の酸素の三分の二がアマゾンから供給されるという大切な森林なのに、驚くほかはありません。

物を大切にした縄文人

小清水遺跡を発掘した時、径三―五ミリの穴のあいた土器片が五個見つかりました。その穴にひもを通して壊れた土器を修復し、再び用いたものと思われます。縄文人がどんなに物を大切にしたか、よくおわかりでしょう。

わが国の経済が成長して神武景気とかいわれた頃、「使いすて」という言葉が使われはじめましたが、何という暴言であったことかと反省されます。石油ショック以来今や「省資源が世界の合い言葉になっています。地球上の資源はみな限られていますが、なかでも、森は人間の生存にかかわる最も大切なものではないでしょうか。

(教育広報委員長　菅井　進)

合小)・(女子)／鈴木早苗(大谷小)　■70mハードル(男子)／熊谷雄司・(女子)／伊藤由香里(宮宿小)　■走り幅とび(男子)／菅井浩則(和合小)・(女子)／鈴木早苗(大谷小)　■1000m走／志藤清隆(大谷小)　■800m走／伊藤由香里(宮宿小)　■400mリレー(男子)／宮宿小A・(女子)／宮宿小A

平成元年度朝日町体育協会表彰

■殊勲賞
・大谷剣道スポーツ少年団
・朝日中男子バスケットボール部
・堀　由紀子(舟　渡)
・菊地　修子(沼　向)
・伊藤　淳(前田沢)
・成原みき子(西　町)
・武田美由紀(栄　町)
・村山　陽子(大谷七)
・清野　由美(古　槙)

■奨励賞
・石塚　茂二(四ノ沢)
・斎藤久三郎(大　滝)

岡田杯争奪ミニバスケットボール大会(寒河江・西村山地区)

■男子(ブロック別)
・優勝　和合ミニバスケット
■女子(ブロック別)
・三位　和合ミニバスケット
・三位　宮宿ミニバスケット

こせきのまど

■5月1日～31日届出

すこやかに（出生届）

区名	出生児氏名	父名
西町	岡崎英里香	博勝
西町	成原美香	正則
送橋	清野紗由美	雅英
大隅	近衛歩	秀敏
古槙	渡邊明子	薫
大町	渡辺力	俊一
西町	渡辺五月	良
大暮山	小松美鈴	光之
小原	鈴木勝貴	勝治
仙台市		大町
鴨田	慎治 ♡ 鴨田一美	
松程		山形市
鈴木	茂 ♡ 佐藤明美	
助ノ巻		松程
白田	浩一 ♡ 向みどり	
松程		大舟木
長岡	睦 ♡ 佐藤きよみ	

おしあわせに（婚姻届）

大谷六	
渡邊芳夫	♡ 大江町 佐竹泰子

やすらかに（死亡届）

区名	死亡者氏名	世帯主
八ッ沼	登坂高顯	盛高
中沢	堀やす	新一郎
杉山	花山俊昭	昭雄
八ッ沼	佐竹ワカエ	誠一
古槙	村山小一郎	幸多
助ノ巻	柴田一雄	喜久雄
舟渡	堀たけよ	政一
松程	阿部正巳	満雄

● 宿／佐藤　祐市さん
智賀子さん

さわやか新婚さん

祐市さんは農業を営む好青年。かかし祭り用のかかし作りを手伝ったのが縁で交際が始まり、めでたくジューンブライド（六月の花嫁は幸せになるという西洋のことわざ）になった彼女。「見た目はきゃしゃだけど、頼りがいのある人」と、はにかみながらのろけてくれた。

四年間の交際で、お互いになくてはならない存在になったとか。子供好きの二人は「子供の多いにぎやかな家庭にしたいな」と話してくれた。初夏の新緑が似合う新婚さんです。

（鈴木高光　広報委員）

人口と世帯数

●平成2年5月31日現在

人口		10,697（△9）
	男	5,300（△8）
	女	5,397（△1）
世帯数		2,590

（　）内対前月

●町立保育園へ

大谷の朝日ビニール㈱（遠藤俊晴社長）より、町内三保育園へ給食時に使うランチマット六百枚をいただきました。

○第10回朝日町民号参加者募集

▽**行先**／日光東照宮と江戸村

▽**期日**／九月九日～十日（一泊二日）

▽**募集人員**／四十名

▽**会費**／一人三万五千円

▽**問い合せ・申し込み**／役場企画情報課☎(67)2111へ

〝社会を明るくする運動〟を地域全体で展開しよう!!

「少年の非行防止と更生の援助のため、地域住民の理解と参加を求める」を目標に七月一日から三十一日まで、犯罪のない明るい社会を築く全国的運動が行われます。時代を担う少年のためあなたの理解とご協力を。

■おわびと訂正

本紙五月号の6ページ「平成二年度の新区長さん」欄で、松原区長は松尾信朋さん、八ッ沼区長佐竹千歳さんの誤りでした。おわびして訂正いたします。

春夏秋冬　編集後記

六月号の編集をようやく終え帰宅。「ただいま」と玄関の戸を引くと二人の子供が、先を争って駆け寄ってくる「おとうさんだっこして」。鞄を持ったまま二人をだっこしようものなら、私のほほはペロペロキャンディーのごとくなめられてしまう。

こちらとしては、一刻も早くひと風呂浴びて冷えたビールで晩酌をともくろんでいるのに。

こんなことを同僚に話しをしたら、「今が一番いい時期だよ。だんだん大きくなると、口答えはするし、たいへんなんだから」と言われてしまった。

そういえば、「子どもは五歳までのあいだに、一生分の親孝行をしている」とか。まあそう考えれば、少々ぬるいビールもがまんができる。（K）